

1 研究主題

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～Relevance を高めたタスク活動の工夫を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的に取り組む児童・生徒の育成が急務であると考えます。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。一方、外国語活動にあまり意欲的に取り組まない児童や、語彙力や文法知識が定着していない生徒がいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読めることなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となり、最後までやり遂げようとする学習意欲を高めることが最も重要であると考えます。山梨大学の田中武夫先生も、「現在の学校教育が直面している最も大きな課題の一つは、生徒たちの学習意欲が下がっていることです。～中略～学ぶことが知的に面白い、役立ちそうだった生徒の内発的な動機をいかに高めていくかが、今の教育の大きな課題となっています。」(『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』p.4)と著している。

そこで、外国語（英語）活動において、児童・生徒自身との関連性や、既習事項との関連性をもたせたタスク活動（activity）を仕組むことで、学習者が活動を身近に感じ、より意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の経過と今後の予定

月日	内容	司会・記録
5月 7日	組織決定・今年度の研究の方向性について	山北中
5月21日	研究の方向性（サブテーマ）統一授業研について	大和中・塩山中

6月 4日	校種別検討会・夏季学習会について	山南中・牧一ニ小
8月 4日	統一授業研指導案検討・DVD視聴を通しての学習会	松里中・日川小
8月29日	統一授業研究（授業者：山梨南中学校 大村先生）	笛川中・山北中
10月 1日	校種別・学年別タスク活動の検討	勝沼中・岩手小
11月26日	鋼種別実践報告	岩手小・山南中
1月14日	統一授業研指導案検討	井尻小・日下部小
2月 4日	統一授業研究（授業者：牧丘第一小学校岩下先生）	塩山中・笛川中
2月18日	研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	塩北中・勝沼中

（3）研究目的および研究仮説，仮説の検証方法

①研究目的

英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

②研究仮説

タスク活動において，児童生徒や目標との関連性をもたせた学習活動を取り入れることによって，児童生徒の学習意欲が高まるだろう。

③仮説の検証方法

研究主題にせまるためのタスク活動の検討と実践。

指導案検討や研究授業を通して仮説の検証をする。

（4）研究内容

- ・学習意欲についての文献研究を行う。
- ・A(attention) R(relevance) C(confidence) S(satisfaction) モデルを学ぶ。
Attention（注意）「おもしろそうだ」 Relevance（関連性）「やりがい,意味がある」
Confidence（自信）「やればできそうだ」 Satisfaction（満足感）「やって良かった」
- ・先行研究から学ぶ。
- ・研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践
- ・関連性を高めたタスクの検討と実践
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- ・小学校英語科について学ぶ。

3 研究実践

（1）Relevance を高めるための活動の工夫

- ・ Picture cards の使用
- ・関連した身近な話題の提供
- ・発問の工夫

- ・疑似コミュニケーション体験 どんな時に使われる？＝生徒との関連性
- ・身近な人物，話題を使い，親しみやすさと具体性を高める。
- ・「書くこと」の自己表現活動を取り入れる。
自己紹介，有名人や友達（絵や写真を用いて）の紹介
文化紹介（修学旅行）事前に文化的・歴史的な所を一つ決め，現地で写真をとる。
5～7文の英文で説明→発表会 →学園祭での展示
- ・視聴覚機器を使って視覚効果を高める。DVD の活用
- ・場面設定をする中で，課題をもたせ，どの場面でどのような表現ができればいいの
か明らかにする。

（2）授業実践

第2学年英語科学習指導案

指導者 大村 隆

A L T アマンダ

1 単元名

New Horizon English Course 2 Writing Plus 2 「メール」

2 単元について

この単元はユニット3の延長線上にある単元で，電子メールについての学習を扱っている。近年，インターネットの普及に伴い電子メールの利用も増加してきている。生徒たちの中にも，携帯電話などを介して電子メールを利用している生徒が多い。しかしながら，英語の電子メールをやり取りしたことのある生徒はいない。

このようなことを踏まえて，この単元を通して英語で電子メールを作るにはどのようにしたらよいかや電子メールで使うことができる電子メール固有の表現などを学習する。さらに，学習したことをもとに，実際に近いかたちで英語の電子メールを作り，A L T に送る。そして，A L T から返事をもらうということも体験させる。

3 生徒の実態

男子18名，女子14名，計32名の学級である。

授業の雰囲気は良好で，仲間同士の間で教え合いが見られたり，自分から進んで手を挙げ，発言したりする生徒たちが多い。その反面，答えをわかっているが，自信がないためか，発言しない生徒たちも少数いる。ペアワークでの学習活動にはあまり抵抗がなく，パートナーと楽しく学習している様子を多く見ることができるが，音読になると，声の大きさが全体的に小さくなる。書く活動については意欲的に取り組もうとする生徒が多いが，書くことができる生徒とそうできない生徒の差が出てきている状況である。

4 単元の目標

- ・メール特有の文形式や有用表現，略号，絵文字を学ぶ。
- ・英語のメール作りの際，本文の「伝えたいこと」において，夏休み中に自分がした

ことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。

- ・ A L Tからの返事を読んで、返事の内容を理解することができる。

5 研究とのかかわり

東山梨教育協議会外国語部会におけるテーマ「意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成～Relevanceを高める工夫をしたタスク活動を通して～」を受けて、今回の主たる学習活動であるメール作り、A L Tから返事をもらうことをより実際のものに近いかたちで取り組ませたいと考えた。

そのための工夫として、まず、生徒たち一人ひとりに夏休み中にしたことや夏休み中の出来事としてどのようなことがあったかを振り返らせ、A L Tにどのようなことを伝えたいかを考えさせる。そして、メールの文章の中に入れるべきこと（メールの作り方とその内容）を確認させる。次に、生徒たちにメールをパソコンで作らせるようにする。そして、メールを学校外に送り出すことができない事情を踏まえて、生徒用フォルダーを介して、A L Tにメールを送らせる。その後、A L Tから返事をもらうかたちをとるようにする。

6 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
辞書を使いながら、自分自身のことについて意欲的に書いている。	メールの本文の「伝えたいこと」において夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。	A L Tからの返事を読んで、返事の内容を理解することができる。	メール特有の文形式や有用表現、略号、絵文字に関する知識を身につけている。

7 単元の指導と評価の計画（3時間）

	学習内容（主な活動）	評価の観点				具体的評価規準 (評価方法)
		関	表	理	言	
1	メール特有の文形式や有用表現、略号、絵文字を学ぶ。	○			○	学習したメール特有の文形式や有用表現、略号、絵文字に関する知識をもとに教科書の Step1 や Step2 の練習問題のメールを正しく完成させることができる。(発言、教科書)
本時	学習したメールに関する知識をもとに英語のメールを作り、A L Tに送る	○	○			メールの本文の「伝えたいこと」において夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事

	ことができる。				を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。(観察, 作ったメール)
3	A L Tからの返事を読んで、返事の内容を理解することができる。	○		○	A L Tからの返事を読んで、返事の内容を理解することができる。(発言, ワークシート)

8 本時の授業

- (1) 日時 平成26年8月29日(金) 5校時
- (2) 場所 コンピューター室(1F)
- (3) 学級 2年1組
- (4) 題材 Writing Plus 2「メール」
- (5) 目標 ・英語のメール作りの際、本文の「伝えたいこと」において、夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。

(6) 評価の基準

A	B	C
英語のメール作りの際、本文の「伝えたいこと」において、夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。また、書かれた文章の中で使われている単語や文法も正確である。	英語のメール作りの際、本文の「伝えたいこと」において、夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。	英語のメール作りの際、本文の「伝えたいこと」において、夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上で書くことができているが、書いている内容(文同士)に関連性がなく、文の羅列になっている。

(7) 展開

過程時間	学習内容・生徒の活動	指導内容・教師の支援	備考
1. Greeting (1min)	あいさつをする。	あいさつをする。	
2. Warm-up (1min)	日付, 曜日を答える。	日付, 曜日をたずねる。	英語を使ってたずねたり, 答えたりすることで英語を学習する雰囲気を作る。
3. Check What we are going to do today?	今日の授業でどのようなことをするかを聞き, 理解する。	今日の授業でどのようなことをするか, また, どのような点に注意すべきかを伝える。 *英語のメール作りを	英語で説明後, 必要があれば, 日本語で再度説明する。

<p>(3min)</p> <p>* Relevance を高める活 動</p>		<p>する。</p> <p>*英語のメールで、夏休 み中に自分がどんな ことをしたかや夏休 み中の出来事を A L Tに伝える。</p> <p>*注意点は、メールの中 の本文の「伝えたいこ と」には、夏休み中に 自分がしたことや夏 休み中の出来事を英 文3文以上のまとま りのある文章で表現 したものを必ず入れ ること。</p>	
<p>4.What e-mail should we make? (7min)</p> <p>* Relevance を高める活 動</p>	<p>授業者間でのやり取り をきいたり，仲間たち と話し合ったりする中 で，どのようなトピック にもとづく英語のメ ールにするか，また， どのようなことをメー ルの内容に入れるかを 考える。</p>	<p>夏休み中に自分がした ことや夏休み中の出来 事を振り返らせ，どのよ うなトピックにもとづ く英語のメールにする か，また，どのようなこ とをメール内容に入れ るかを考えさせる。</p> <p>①授業者同士でのやり 取りをまず聞かせる。</p> <p>②近くに座っている仲 間たちと2人または 3人1組を作らせ，ど のようなことをした 夏休みだったか，どん なことがあった夏休 みだったかを振り返 らせる。</p> <p>また，メールの内容に 入れることも考えさ せる。</p>	<p>どのようなトピックに もとづくメールにする か，また，どのよう なことをメールの内容に 入れるかを少しずつ考 えさせていく。</p> <p>そして，この後のメー ル作りを意欲をもって やれるように仕向けて いきたい。</p>

5. Check the models. (7min)	英語のメールのモデルからメールの作り方やメールの中に入れるべき内容の確認をする。	これから作る英語のメールのモデル（教師が作ったもの）を提示し、メールの作り方やメールの中に入れるべき内容の確認をする。	説明・確認はポイントを押しえて、できるだけ短時間で行う。 *モデルメールが書かれた Sheet の活用
6. Make e-mail. (25min)	<p>教師が作ったメールのモデルも参考にしながら、メールのトピックを1つに決める。そのうえで、そのトピックにもとづいたまとまりのある文章を入れた英語のメールを作る。必要に応じて辞書を活用する。</p> <p>作り終えたメールは、自分の名前のデータファイル名で、「南中－生徒共有」→「H26 研究授業（英語）」のフォルダーに保存する。</p>	<p>メールのトピックを1つに決めさせて、まとまりのある文章を入れた英語のメールを作らせる。必要に応じて、辞書を活用させる。</p> <p>*自分だけではどうしても作ることができない生徒には、どのような単語や英文を使えば、その生徒が表現したいことを伝えられるか助言・指導をする。</p> <p>*早く作り終わった生徒のメールのチェックも行い、時間を見ながら、内容の付けたしができそうな点を指導する。</p> <p>作った英語のメールのデータファイル名は自分の名前のもとさせ、「南中－生徒共有」→「H26 研究授業（英語）」のフォルダーに保存させる。うまく保存できない生徒がいれば、その生徒のところへ行き、やり方を指導する。</p>	◎英語のメール作りの中の本文の「伝えたいこと」において、夏休み中に自分がしたことや夏休み中の出来事を英文3文以上のまとまりのある文章で表現することができる。
7. Share friends' e-mail. (3min)	メールの中の「伝えたいこと」でどのようなことを書いたかを日本語で口頭により発表す	メールの中の「伝えたいこと」でどのようなことを書いたかを日本語で口頭により発表させる。	時間を見ながら、発表させる。そのため、数人の発表で終わってしまうことも予想され

	る。また，生徒間でメールの内容の共有をする。	生徒間でメールの内容の共有をさせる。	る。
8.Conclusion (2min)	今日の学習の振り返りをする。 次時の内容について確認する。	今日の学習の振り返りをさせる。 *振り返りの内容 ・英語のメールの基本的な作り方について ・伝えたい気持ちを大切にすること 次時の内容について伝える。 *次時の内容 ・ALTからの返事を読んで，理解する。 ・メールの作り方などのまとめをする。	振り返りはポイントを押さえて，簡潔に行う。
9.Greeting (1min)	あいさつをする。	あいさつをする。	

* 研究討議より

△生徒たちは与えられた課題に，辞書を活用したり，生徒間で教え合ったりしながら，意欲的に取り組んでいた。

△例文集の **handout** が生徒たちの活動をよく助けていた。

△今回のコンピューターを使った授業は，普段，英語でメールを作る機会がない生徒たちにとって，よい経験になった。

△コンピューターを使った英語の授業は生徒たちの学習意欲を高めることにつながる。

▼英語が使える場面では，授業者が英語を積極的に使ったり，生徒たちに使わせたりすることが必要である。また，英語で指示を出した後，日本語で再度伝えなおすことは生徒の様子を見ながら，できるだけ少なくしたい。

▼メール作りの場面設定については，今回のようなもの以外にも，ALTからもらったメールを全員返そうというものもある。授業をする前に，生徒たちの実態などを踏まえて，どのような場面設定がよりよいのかをよく考える必要がある。ALTからメールがあり，その返信をするという場面でもよかったかもしれない。

▼小学校段階からもう少しパソコン操作を学ばせる必要がある（例えば，日本語入力と英語入力の切り替え方，大文字と小文字の入力の仕方，スペース・キーの使用など）。パソコン操作の質問が多くなり，本質（英語）に関わる質問が少なくなってしまった。

Model ①

1 はじめのあいさつ	Hi, Ms.Amanda.
2 本文 ・ 出だし (1文) ・ 伝えたいこと (3文以上) (自分がしたことや出来事, いつのことか, 何を見たか・食べたか, 感想など)	出だし How are you doing?
	伝えたいこと I went to Miyajima in Hiroshima on July 31.
	I saw Itsukushima shrine there.
	It was very nice. I want to visit it again.
3 終わりのあいさつ	I hope to hear from you soon.
4 署名 (差出人の名前)	Takashi

Model ②

1 はじめのあいさつ	Hi, Ms.Amanda.
2 本文 ・ 出だし (1文) ・ 伝えたいこと (3文以上) (自分がしたことや出来事, いつのことか, 何を見たか・食べたか, 感想など)	出だし How are you doing?
	伝えたいこと I played soccer a lot for my club this summer.
	So I could improve. I want to play in the next game.
3 終わりのあいさつ	I hope to hear from you soon.
4 署名 (差出人の名前)	Yutaka

(3) 関連性を高めたタスク例①

対象：3 学年

①The song _____ by many people is ②_____.

LET IT GO

例を6つあげて, 以下の会話をペアで行わせる。

.....
A: Do you know ① _____?
B: Yes, I do. He is ② _____.
A: Do you like (him / her / it)?
B: (Yes. / No.) I think (he / she / it) is ③ _____.
.....

- 活動の流れ
- ・ペアで①②の空欄を埋める。(①には過去分詞か現在分詞を入れる)
 - ・全体で確認
 - ・ペアで6つのどれからを使いながら練習する。
 - ・暗唱するまで練習する。

(4) 関連性を高めたタスク例②

対象：2 学年

自分の考えや思いを伝えたいとき…

I hope (that) 「～を願う」 / I think (that) 「～だと思う」 /

I'm sure (that) 「ぜったい～だ」

① 強歩大会について反省&来年の目標

I hope I'll be in the top 10.

I think I must practice hard.

I'm sure Lisa will be No.1 / be first.

② 次の英語の期末テストに向けて

I hope I can get 100%.

I think I will be in the top 10.

I'm sure Kana's grade will be the best.

② 徒会役員選挙に向けて

I hope I can be the leader.

I think Ken is a good leader.

I'm sure Kenta will be the leader.

④ ボランティアについて

I hope I can do something for others / for the earth.

I think we can gather cans, eco-caps, pick up trash...

I'm sure we can help each other.

⑤ 給食について

I hope we have ice cream for school lunch.

I think school lunch is necessary.

I'm sure bibimba is students' favorite school lunch.



上のモデル文を参考にしながら、5つの話題について自分の考えを書いてみよう。

①

(この例文を参考に①～⑤を書かせる)

(4) 関連性を高めたタスク例③

対象：1 学年

Unit6 まとめ 【他己紹介をしよう!】

Unit6 の文法のまとめとして、他己紹介の文を作ろう。5文以上の英文で他人を紹介してみよう。最後に、グループで作った文をクイズにして出題します。

◆モデルセンテンス

① This is Funassyi.

② He lives in Funabashi.

① こちらは、ふなっしーです。

② 船橋に住んでいます。

- | | | |
|----------------------------------|---------------|--|
| ③He is a famous local character. | ③ご当地キャラです。 | |
| ④He likes peaches. | ④桃が好きです。 | |
| ⑤He speaks Japanese | ⑤日本語を話します。 | |
| ⑥He has 274 brothers. | ⑥274人の兄弟がいます。 | |

◆3単現の一般動詞の作り方

変化	3単現のsのつけ方	例
基本原則	一般動詞にsをつける	play <u>s</u> / like <u>s</u>
語尾がs / sh / ch / o	esをつける	wash <u>es</u> / teach <u>es</u> / watch <u>es</u> / go <u>es</u>
語尾が子音+y	y→iにしてesをつける	study →stud <u>ies</u>
不規則変化	Have	have → has

◆実際に書いてみよう！

☆流れ☆

- ー前時ー①3人グループ作り（10分）
 ー本時ー②英文作り（②③で15分？）
 ③クイズ作り
 ④練習（5分）
 ⑤発表（20分？）

①グループ作り

活動の前時に【グループ作り】，【ミーティング】を行う。

※グループ作りは，配慮が必要だと思います。

ミーティングでは，（1）紹介人物を何にするのか，（2）画像，（3）その人についての情報をどうするか（マニアックな情報があるといい）を話し合ってもらおう。

②英文作り

ひとり1文は必ず担当して作成するようにする。

③クイズ作り

作成した英文を見て，どの順番で英文を伝えていったら面白いかを考える。

④練習

グループでクイズ発表の練習をする。誰がどのような役割かをはっきりさせる。自分が作成した文を担当すると良いかもしれない。

⑤発表

グループごとにクイズを出題する。最後に画像を見せる。（手書きの方がおもしろいかも）

5 成果と課題

これまでの研究活動では，授業実践の映像を用いた学習会，小中に分かれてのタスクの検討，そして統一授業研を実施してきた。昨年度のテーマを引き継ぐ形で研究がスタートしたが，今年度はより焦点化しようとサブテーマを絞り込んだ。学習意欲とは何か，児童・生徒が主体的に学習するために必要な要素は何であるかも一度検討した。その中でARCSモデルについて学び，その中でもR(relevance)を高

めるための活動が、普段の授業実践と多く結びついたので、サブテーマに設定した。サブテーマを絞ることで、話し合いの方向性が明確になり、目指す姿も共有できるようになった。

研究授業では①導入時に本時の学習内容を知り、意欲的に活動するための工夫、②ICT活用により学習意欲を高める、③場面設定の工夫により意欲をもたせるといふ点を中心に指導案を検討し、授業実践につなげた。授業研究では、これら点に焦点を当てた授業を行い、研究討議を行った。研究討議の中では、本部会の研究テーマにあるように、タスク活動を工夫していくことで、最終的には児童・生徒が意欲的に英語を学習する姿を目標にしていることを再確認しながら、授業研で行われた実践を改善したり、更に高めたりする方法について、様々な意見が出され、本部会の研究が厚みを増していくことが感じられた。

授業研究の後、これまでの研究を踏まえ、学年ごとに分かれ、具体的な活動を検討し、部員がそれぞれ学習意欲を高める活動の実践を行い、その成果や課題などを部会で発表し、研究討議を行っていく予定である。部会員全員が実際にテーマに沿った授業実践を行うことで、さらにテーマに迫ることができるのではないかと考える。また、議論を深めることで、今年度の研究を実際の児童・生徒のためになるような確かなものとしていきたい。

本年度は多くの小学校の先生方が部会にいて、小中連携を意識している。昨年1月には小学校の研究授業を参観し合うことができ、本年度も1月には小学校の授業を参観する予定である。また、夏季学習会では小学校外国語活動の実践をDVDで視聴し、小学校の現状を知ると同時に、中学校ではどんな形で活用していけるか検討した。互いの授業を参観するだけにとどまらず、互いの実践を活用し合うことで、小学校から中学校への繋がりがスムーズになるだろうと考え、実践していく予定だ。小中連携を考えて、より多くの接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。

6 研究組織および部員

- ・ 助言者 大堀慎司（大和中学校）
- ・ 部長 三枝ゆかり（塩山中学校）
- ・ 副部長 丸山正史（勝沼中学校） 中村大介（山梨北中学校）
- ・ 部員 平井成二（塩山中学校） 根岸幹実（塩山中学校） 広瀬竜太（山梨北中学校）
依田 久（山梨北中学校） 秋山悦子（山梨北中学校） 辻 由樹（笛川中学校）
関岡由香子（松里中学校） 的場貴政（笛川中学校） 長嶋明美（山梨南中学校）
筒井栄太（山梨南中学校） 大村隆（山梨南中学校） 梶原ナツミ（勝沼中学校）
奥田真由美（大和中学校） 河野美春（塩山北中学校）
小野真理子（岩手小学校） 飯室 林（岩手小学校） 神宮司剛（井尻小学校）
中村弘和（井尻小学校） 岩下 城（牧丘第一小学校）
藤木真里佳（日下部小学校） 降矢しのぶ（日下部小学校）
岩下秀人（日川小学校） 中山貴彰（日川小学校） 本宮知子（牧丘第二小学校）

